

活動報告

老人クラブと医療者による「事前指示書」の共同制作

Joint Production of "Advance Directive" by Senior Citizens Club and Medical Practitioners

内田 信之¹⁾ 平形作太郎²⁾ 小林 清²⁾ 滝沢 征子²⁾ 蟻川七郎次²⁾ 矢嶋美恵子³⁾
剣持 美³⁾ 狩野 道子³⁾ 櫻井 慶一⁴⁾

Nobuyuki Uchida¹⁾, Sakutarou Hirakata²⁾, Kiyoshi Kobayashi²⁾, Seiko Takizawa²⁾, Shichirouji Arikawa²⁾,
Mieko Yajima³⁾, Rumi Kenmochi³⁾, Michiko Kanou³⁾, Keiichi Sakurai⁴⁾

要 旨

群馬県吾妻郡において、老人クラブ連合会と医療者が共同して、事前指示書である「私の意思表示帳」を共同制作した。また老人クラブ連合会の会員を主な対象として、計9回の「リビング・ウィル研修会」を開催した。高齢化が進む社会の中で、医療者と高齢者が協力して「事前指示書」を制作することは、人が地域社会で生活し、より良い人生を全うする上において、意義のあることと考え報告する。

Keywords : 事前指示書 (Advance directive), 老人クラブ (senior citizens club), リビング・ウィル (living will)

背 景

厚生労働省が平成29年12月に行った一般国民、医療者を対象とした「終末期医療に関する意識調査」の結果によれば、自分の意志決定ができなくなった時に備えて、どのような医療・療養を受けたいかあるいは受けたくないかを記載した事前指示書をあらかじめ作成しておくことに、一般国民の66.0%が賛成している。一方実際に事前指示書を作成している割合は一般国民の8.1%と、平成25年の調査の3.2%から2倍以上増加したとはいえ非常に少ないのが現状である。

事前指示書作成を進めるためには、既存のコミュニティの中で地域住民が事前指示書について話す機会が必要である。そのコミュニティの一つとして、私たちは老人クラブ連合会に注目した。老人クラブ連合会とは地域を基盤とする高齢者の自主的な組織であり、自分自身を豊かにするだけでなく、明るい長寿社会づくり、社会福祉の向上に努めることを目的としている。各都道府県・指定郡市に63団体があり、その下部組織として市区町村老人クラブ連合会、地区老人クラブ連合会が存在する。会員数は全国で500万人を越し、吾

妻郡老人クラブ連合会には60歳以上の人口の約30%、7500人以上の会員が存在する。

今回群馬県吾妻郡において、吾妻郡老人クラブ連合会の方々と吾妻郡で働く医療者が、事前指示書である「私の意思表示帳」を共同制作するという機会を得た。高齢化社会の到来でその存在の重要性が高まると予想される老人クラブ連合会の方々とその地域の医療者が、自分自身や家族の終末期の問題を論じ合うことは、地域社会にとって極めて重要なことと考え報告する。

活動内容

今回報告する活動は、NPO法人あがつま医療アカデミー、吾妻郡老人クラブ連合会、原町赤十字病院職員、吾妻郡医師会の了解を得て行われたものである。NPO法人あがつま医療アカデミーとは、群馬県吾妻郡内6町村(中之条町、長野原町、草津町、嬭恋村、高山村、東吾妻町)の医療の問題をあらゆる医療者が共有し考えていくことを目的に2012年に設立された団体である。群馬県吾妻郡の医師会や歯科医師会、看護協会、薬剤師会、栄養士会、吾妻郡の中核病院である原町赤

1)原町赤十字病院

2)吾妻郡老人クラブ連合会

3)NPO法人あがつま医療アカデミー

4)吾妻郡医師会

著者連絡先：内田信之 原町赤十字病院外科 [〒377-0882 群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町 698]

email: n-uchida@haramachi-jrc.jp

(受付日：2018年5月7日、採用日：2018年11月27日)

©2019 日本プライマリ・ケア連合学会

表 吾妻意思表示帳委員会メンバー一覧（年齢、性別の記載についてはメンバーより了解を得ている）

職種		性別	年齢
1	原町赤十字病院副院長	(あがつま医療アカデミー理事長)	男 55
2	原町赤十字病院看護部長	(あがつま医療アカデミー会員)	女 62
3	原町赤十字病院看護師長	(あがつま医療アカデミー会員)	女 56
4	原町赤十字病院看護師長	(あがつま医療アカデミー会員)	女 51
5	原町赤十字病院認知症認定看護師	(あがつま医療アカデミー会員)	女 41
6	長野原診療所医師	(あがつま医療アカデミー会員)	男 33
7	六合温泉医療センター看護介護副部長	(あがつま医療アカデミー会員)	女 44
8	吾妻郡老人クラブ連合会会長		男 87
9	吾妻郡老人クラブ連合会副会長		女 85
10	吾妻郡老人クラブ連合会副会長		男 85
11	吾妻郡老人クラブ連合会副会長		男 78
12	吾妻郡老人クラブ連合会理事		男 75
13	中之条町老人クラブ連合会理事		男 82
14	中之条町老人クラブ連合会理事		女 80
15	長野原町老人クラブ連合会理事		男 76
16	長野原町老人クラブ連合会理事		女 75
17	嬭恋村老人クラブ連合会理事		女 78
18	草津町老人クラブ連合会理事		女 80
19	高山村老人クラブ連合会理事		男 81
20	高山村老人クラブ連合会理事		女 76
21	東吾妻町老人クラブ連合会理事		女 79
22	吾妻郡保健福祉事務所長	(あがつま医療アカデミー会員)	男 57
23	吾妻郡社会福祉協議会事務局		女 53
24	吾妻郡社会福祉協議会事務局		女 67
25	あがつま医療アカデミー事務局	(原町赤十字病院地域連携課)	男 40
26	あがつま医療アカデミー事務局	(原町赤十字病院地域連携課)	男 25

年齢は平成 30 年 6 月 1 日現在

十字病院の職員らとともに、医療関連の様々な事業を行っている。終末期の医療やケアについての意思表明書である「リビング・ウィル」については、2012年の吾妻郡の全胃ろう患者の調査からその重要性を認識し¹⁾、2014年から啓発活動を開始した²⁾。そして2014年から2016年の2年間に吾妻郡内で55回の「リビング・ウィル研修会」を開催した。この間に事前指示書である「私の意思表明書」も制作し、吾妻郡内の住民に配布した。これらの活動を行う過程で吾妻郡老人クラブ連合会の方々がこの問題に強い関心を抱いていることを知り、著者らの呼びかけで2017年から共同で「リビング・ウィル」啓発活動を行うことになった。

そこで原町赤十字病院の職員、あがつま医療アカデミーの有志のメンバー、吾妻郡老人クラブ連合会理事、吾妻保健福祉事務所長などとともに吾妻意思表明委員会(表)を結成し、計12回の会議を開催した。その最も重要な目的は、老人クラブの方々の意見を最大限尊重した事前指示書である「私の意思表明書」を共同制作することである。

この会議と同時並行で、群馬県吾妻郡内の6町村の

老人クラブ連合会の定期集会など利用し、多くの高齢者に「リビング・ウィル」について知ってもらうことを目的とした研修会を計9回開催した。研修会後たくさんの方から「リビング・ウィル」について家族と話し合ったという声をいただいた。講師はNPO法人あがつま医療アカデミーの有志のメンバーが行った。この研修会の時に得た意見と、患者が医療介護福祉従事者や家族とともに将来の医療やケアについて話し合うプロセスであるアドバンス・ケア・プランニングの理念、および意思表明委員会の会議内の意見に基づいて全体の構成を検討し、さらに自分自身の価値観やもしもの時の希望などを記載できるように、図に示す目次の内容を決定した。その後各章の文言やその表現方法について意見を交わしあった。老人クラブの方々には、家族を病気で亡くされた方や自分自身が重い病気を経験している方もおり、その経験から代理人の選定の問題の難しさについての意見もあった。また用語についても、在宅でも可能な処置のページを設け説明することとした。このような過程を経て、地域住民に配布すべき事前指示書である「私の意思表明書」を制作

目次	
意思表示帳を書くにあたって	1
私について	2
あなたが生きていく上で大切に思うこと	4
もしもの時の私の希望	
1) 病気の告知について	5
2) 治療について	6
3) 口から食べられなくなったとき	7
4) 最期を迎える場所について	8
延命治療（処置）について	9
希望する延命治療（処置）	10
代理人について	11
記入にあたっての主な用語の説明	13
延命治療・救命処置編	14
医療的処置・治療編	15
在宅でも可能な処置	16
その他	17
メモ	19

図 「私の意思表示帳」の目次

し完成させた。

今回の活動を通して老人クラブ連合会の方々と頻りに直接話をする機会を得たことで、あがつま医療アカデミーや原町赤十字病院が地域の住民を対象として開催している「がん」や「認知症」、「フレイル」などのセミナーやフォーラムに老人クラブ連合会の方々が積極的に参加し、様々な意見をいただけるようになった。

考察

本邦では様々な疾患や障害を抱えながら生活する高齢者が増加している。本人がどのように療養し最期を迎えたいかという問題に、自分なりに考え、その意思

を何らかの形で表明することは非常に大事なことである。そしてその問題を切実なものとして、まさに目の前の問題として最も深く意識している方というのは、長い年月の中で、家族や友人などの死を経験し、あるいは様々な病気を経験してきた高齢者ではないだろうか。今回の事業はこのような考えのもとに始まったものである。

群馬県吾妻郡では一般住民を対象とした「リビング・ウィル」啓発活動を2014年から開始し、事前指示書の作成も積極的に進めてきた。この活動と同時に、医療介護福祉従事者のアドバンス・ケア・プランニングの知識および実践能力の向上目的とした研修会も3回開催した³⁾。

私たちは誰でも年を重ね老人になっていく。同時に医療は常に進歩していく。そして地域社会も日々変化していく。高齢者の受け皿である老人クラブ連合会の方々と医療者が、その時の地域社会の状況、医療情勢などを勘案しつつ協力して事前指示書を制作することは、人が地域社会で生活し、より良い人生を全うする上において、意義のあることと考え報告した。

利益相反

なお、この論文に対して著者ならびに共著者に開示すべき利益相反はありません。

文献

- 1) 内田信之, 剣持る美, 永井多枝子, 他. 在宅胃ろう患者の訪問調査から見えてきた在宅医療の問題と今後の展望. 日本静脈経腸栄養学会雑誌. 2015; 30 (4): 953-958.
- 2) 内田信之, 橋爪直紀, 剣持る美, 他. 吾妻地域における「リビング・ウィル」の啓発活動と「私の意思表示帳」の作成. 日本プライマリ・ケア連合学会誌. 2015; 38 (4): 391-392.
- 3) 内田信之, 加藤裕美, 松井加奈, 他. 地域の中で開催するアドバンス・ケア・プランニング研修会の意義. 日本プライマリ・ケア連合学会誌. 2017; 40 (3): 164-166.